

# 外の世界へつづく道

## 升沢への道

私、あいっだもん、大っきいの（子ども）、あの酒屋さ頼んで、小さいのうちの実家さ頼んでえ、この辺峰の家に泊まってえ、私免許取りに歩ったんだね。三十年になんだ、私免許取って。

そうそう。そのころ道路も悪かったしねえ。もう、一步間違うと、崖さ落ってくような状態だったから、狭いし。対向車が、今こそ、ほらね、二車線、あそこ、すれすれだったからね。よく、あすこ、事故なんないで、よく通った。

ああ、除雪ね。だから、忘 [わっしえ] らんねえけども、ミツザカでさ、除雪車がひっかかってさ。うん、そして私の車も行けなくてさ、ストップして。しでドア開けらんねえくらい、あそこ、猛吹雪でさ、除雪車動けなくて、また（別の）除雪車応援もらって。うん。忘れらんねえね。

だって、ドア開けらんねんだもの、猛吹雪で。だれえ、1メートルくれえあったんでねえかねえ。あそこで。腰きりぐれえ。今じゃ考えらんねえよね。

（『升沢にくらす』 p.268）